

【日時】

令和2年8月24日（月）13：15～

【場所】

菊川市総合保健福祉センター プラザけやき 2階 201会議室

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画の計画案について
 - ア 現計画の検証等
 - イ 計画案について
 - (2) その他
- 4 閉会

【議事録】

- (1) 第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画の計画案について
 - ア 現計画の検証等

（委員） 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業について、達成度が年々低くなっているが、ケアマネジャー研修会の内容や重要度はどのようなところに位置しているのか。訪問型軽度生活援助サービスと比較すると、これは受益者が手を上げないため目標達成度の点数が低いということでは理解できるが、この事業は、ケアマネジャーが受け持ちをしている利用者にはいろいろなノウハウを提供したりサポートしたりするためのもので、研修をしなければ向上しないのであれば強制的な研修参加が必要と思うが、この研修会はこういった位置づけなのか。

（事務局） 研修はケアマネジャー研修のみでなく、資格を維持するために受けなければならない法定研修がある。市の研修は資質向上のために受けていただきたいと企画しており、今計画では自立支援重度化防止という視点が加わった。強制力までではないものであり、8割という目標は高かったとも思っている。ただ、自立支援重度化防止の視点は皆さんに持っていただきたいため、今後の方向性という形で研修に来なければその内容が網羅できないということではいけないため、資料を後で見ってもらうことを今後進めていきたい。

出席率が下がっているのは確かである。ケアマネジャーの受け持ち人数が増加しており、ケアマネジャー自体の業務が多忙となっているのが一

因と考えている。この研修は近くで行われて、勉強する機会ということで市では一定数は受けていただきたいと思っているが、法定研修は受けていただいております、一定ラインは維持されている。

(委員) 自由参加であれば目標をつけなくても、出てきた人に受けてもらうというレベルでよいのではないかと思います。

(委員) 地域包括支援センターについて心配な話があった。けやきは直営、ブランチは和松会に委託しており、今後、ブランチをセンター化しようと依頼したが、人材難で振出しに戻ったという話だった。今後、もう1か所センターを作ることは非常に重要なことである。人材を見つけるのは大変かもしれないが、今後ブランチは直営でやっていこうと考えているのか、他に委託先を見つけていこうと考えているのか。

(事務局) 昨年度から委託先と協議しながら準備を進めてきたが、センター化するには社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員が必要という条件がある。その中で、人材確保にも努めてきたが難しい状況である。市内の他の事業所に委託することも考えられなくはないが、返事をいただいたのも先々週であり、そこが難しいとなると市直営でまず進めていかなければならないと考えている。しかし、まだ方向性は決定ではないため協議中である。

(委員) 市には有資格者がいるのか。

(事務局) 主任介護支援専門員はいる。

(委員) 社会福祉士や保健師もいるのか。

(事務局) 計画には満たないが、2か所でやろうとしてもできなくはない。人員が増えずに2か所になるだけだと、メリットがない。どういった形がいいか考えながら早急に検討しなければならないと考えている。

(委員) 今のブランチは相談員2名となっているが、特別な資格は必要なく相談を受け付けるというだけなのか。

(事務局) 基本的にブランチという形だと、資格を持っていないくとも相談員として配置できる。今年度は1人増員し、保健師、社会福祉士、介護支援専門員がいる。

(委員) それを継続できないということか。

(事務局) 委託先でも本来業務の施設と人員をどうにかやりくりしながら体制をとっていただいていたが、募集しても介護職がなかなか増えないという現状もあり、難しいという返事をいただいた。

イ 計画案について

(委員) 台風が大きくなっているということで、ケアマネジャーに利用者が災害時にどこの避難所に行くか把握しているかと聞いたら、把握していないようだった。重症、医療が必要な人はけやきに集まるようだが、けやきに来る人が誰かわかっているかと聞いてもわかっていないということだ

った。

実際に医療にあたるのは医師会だが、まったくわからない人が来て診てと言われても困る。個人情報ではあるが簡単なカルテのようなものを用意しておいたらどうかと思う。医師会としても救護に有益だが、どうか。

(事務局) 各ケアマネジャーが担当している利用者の避難所について、2年くらい前までは、ケアプランに“あなたの一次避難所、二次避難所はどこ”という記入のある方が多かった。一時期この話題があがったことがあり、ケアマネジャーが意識して確認している方も多い。ケアマネ協議会では防災部会があり、ハザードマップの見方についての企画も聞いているので、そういう機会をとらえて取り組んでいければと思う。

けやきについては、3師会に御協力いただき救護所を開設するが、避難行動要支援者には別の施設がある。一般的な避難所としても使用していくかもしれないが、けやきは3日間程度救護所として開設し、公民館や学校などが避難所になる。「要介護者＝けやき」ということではない。個人情報のカルテについては考えていく。

(委員) 例えば、病院から退院するときはサマリーも貼ってあるので、お薬手帳に書いておいてもらってもよいかと思う。

(委員) 一時期はケアプランに避難施設を記入するなどかなり意識していたが、一時期よりは意識が薄れてきつつあるのも事実だと思う。ケアマネジャー研修の中でも定期的に勉強し、意識薄れがないようにしていくという方向性で協議会でも意識したい。ハザードマップの見方も新しいケアマネジャーはわからない。今後は協議会の防災部会でも勉強していきたい。

(委員) 3点要望意見として聞いてもらいたい。

1 ページ「計画策定の趣旨」について、9割方前回と同じであるが、菊川市ならではの分析を活かした趣旨にならないか。キラッと光るものや、新型コロナウイルス感染症に係る新しい生活様式などを加えてもらえるとうい。

18ページ「現在の幸せ度」について、前は5点がピークであったが、今回は8点がピークというのはすばらしいことであるため、もう少し文を加えてほしい。幸せ度とは「生きがい」であり、「今日用事がある」ということではないかと思う。

23ページ「どこで介護を受けたいか」について、70%近くが自宅介護を望んでいる。これについてもっと“How To”が述べられるとうい。人生の最期にふれあうのはケアマネジャーである。ケアマネジャーのスキルは研修に尽きると思う。研修が自由参加であっても限りなく100%に近づくことが必要であるのに対し、それが58%というのは、テーマ、時間、やり方、どこに問題があるのか検討・工夫が必要である。

(事務局) ケアマネジャー研修は今のところ任意参加だが、人生の最期を相談する人ということで、市独自で工夫したものなど検討していく。

(委員) 計画案について、「計画策定の趣旨」に菊川独自のものをに入れていくとい

う意気込みが欲しい。

高齢者が増えていくのは間違いないが、11ページの「高齢者の世帯の状況」について、独居高齢者は12年くらいで3倍、老々世帯も2倍くらいに増えている。数としては全国と比べると少ないのかもしれないがすごいことかとは思ふ。「子らとの同居世帯」の“子”というのが非常に問題である。とくに未婚男性が増えている。そのあたりも社会の状況として入れてはどうか。また、別居であれば子との距離についても、遠方だとなかなか状況として難しくなるので、そのあたりも入れると本当の意味での現状がわかるのではないか。

自分事と思わせる、仕向けていく、自分で備えて繋がっておかなければという危機感など、当事者意識が今は必要だと考える。

27ページ「目標1 安心して暮らすことができる基盤の整備」は、どこに相談して備えておくのか、ネットワークの中心がどこなのか、リーダーが誰なのか、しっかり決めておかなければこれまでの3年間と同じになってしまう。

28ページ「目標2 生きがいつくりと介護予防の促進」については、仕事や就労が謳われていないが、これから貧困は大きな問題になっていくと思う。高齢者の就労に関しても考えていった方がよいのではという世の中の流れも感じるため、加えられたらよいのではないか。

(事務局) 今後のワーキンググループ会議でも協議していく。

(2) その他

次回日程について